

第38回 中高校生の吃音のつどい(ことばあそびうた)

11月16日(日)、小学生15人、中学生5人、高校生4人、ご両親19人、スタッフ25人の計68名が参加。今年も千代田区立千代田小学校ことばの教室にて開催。今回、スタッフだけでなく、参加者達も一緒に、からだを動かし声を出してみようということで、谷川俊太郎さんの詩ことばあそびうたのミニ演劇に挑戦しました。「どんどこん・きりなしうた・おなら・だつて・かっぱ・ほっとけ・うとてとこ・かえる・いるか・ののはな・やんま・ばか・うそつききつきつき・かぞえうた」のメドレー。自分達が演じることも楽しかったし、参加者に教えるのも楽しかった。レッスン中も、みんな楽しそうな顔をしてくれたのですごうれしかった。頑張ってきて良かったなあと思えた瞬間だった。話し合いは高校生グループを担当したが、みんなそれぞれの考え方を持っていたり、共感できる悩みを持っていてそのことをたくさん聞いて良かった。僕自身だつてまだ吃音を受け入れられきれていないし、嫌だし、治せるなら治したいと思っているので、「こう考えれば吃音だつていいじゃん」みたいなアドバイスは出来ないけど、参加者よりも少しだけ長く生きてきた分、「この場面はこうやって乗り越えたよ」みたいなのが伝わってればいいと思う。そして少しでも悩みが軽くなってほしい。参加者と一緒に自分も成長でき、吃音で悩まなくてもいいような強い人間になりたい。スタッフの事前練習には、円・演劇研究所の山根舞さんに、演劇指導をしていただきました。(小澤隆、田中宇^{ひし}、本田拓也、町田直人)

N.Mさん(中1 N君のお母さん)

スタッフの皆さんのお陰で、いつも楽しく参加させて頂いています。

親から見ていると、息子は吃音の事をほとんど気にしていない様に感じられます。もちろん歓迎はしていないだろうし、不自由では有るだろうけれど、家でも外でも言いたい事を言い、喋りたい事を喋っている様に思えるからです。11月のつどいの前にも「息子が言友会のつどいに参加するのはどうして？」と聞いてみましたが、「う～ん！何となく？楽しいし…。」としか返ってきませんでした。

息子が楽しみにしているつどいの中でも、一番に楽しみにしているのが、参加者の皆さんとたくさん触れ合う事が出来るエンカウンターゲームの時間です。今回は初めての試みという事で「ことばあそび」という発表を小グループに分かれてしまいましたが、体で表現するのは息子の得意分野で、しかもいつもお世話して下さるお気に入りスタッフの田澤修平さんとのペアだったので、十分に満足のいく発表ができた様です。息子いわく「途中で順番とかセリフを忘れそうになったから発表的にはイマイチ(笑)だったけど笑いのには大成功だった(喜)」とか…。確かに[おならうた]で場を楽しませてくれましたし、家に帰ってからも他の詩を思い出して口ず

さんでいました。

ジッと座って話を聞くことが苦手な息子が今回頑張ったと思う事は、スタッフの方の体験談を座って最後まで聞いた事。「その気持ち俺も分かるよ！(息子の十八番)」なんて思いながら聞いて居たのでは無いかと思います。参加する前には「今日は、話し合いにも参加するよ！」と意気込みを話していました。残念ながらそこまでは集中が続きなかった様ですが、参加の仕方にも成長が感じられ嬉しく思いました。

帰り際に、古澤真弓さん(福岡教育大学大学院障害児教育専攻)から依頼を受けたアンケートですが、息子の吃音に対する気持ちを思いがけず知る事ができ、とても有り難かったです。アンケートに対する息子の答えによると[自分の吃音が無い方が良く、友達も自分の様な喋り方はしたく無いと思うけれど、親も友達も自分の話し方を気にしていないと思うし、自分も気にしていない。話をするのも好き。]という事のように、周囲の人達に恵まれている事も有りますが、何より小2の頃から言友会の皆さんと触れ合う事ができたおかげと感謝しています。苦手な電話も、あまり苦にする様子も無く、これからも吃音と上手に付合っていけたらと願っています。

M.Y さん(小2 H 君のお母さん)

小2の息子を連れて行くのは正直、まだ早いか
なあと思ったのですが、参加して良かったです。

「吃音」「どもる」という言葉を初めて耳にした息
子。まだわずか8才の子供に「吃音」の事実をつき
つけることには不安もありました。でもそれは取り越
し苦勞で、驚いたことに、この日から自分で「ども
る」という言葉を使い始めたんです。こんなにも沢
山の吃音の方に会ったのは、私達親も初めてのこ
とでしたが、とにかく何事にも一生懸命で前向きな
様子に胸を打たれました。

そして息子の仲間が沢山いる！と本当に嬉しく
なりました。スタッフの方々の体験談を伺ったこと
や、吃音の子供を持つ保護者の方々とお話しでき
たことも本当に良かったです。同じ思いを共有でき
たのでしょうか。吃音としっかり向き合ってい
こうと思っはいるものの、やはり息子の今後、将
来には不安を抱いていましたので、息子と同様の
道を歩んできた先輩(?)のお話には力をいただき
ました。立派なスタッフの姿を拝見して、息子の明
るい未来が見えたという感じです。長い時間過し
たはずですが、まだまだ時間が足りなかったような
気がします。もっともっと皆さんのお話を聞きたか
ったです。

「どもるあなたによろこそ言友会 私たちの体験
談集」を購入しましたが、小学校(つどい会場)を
出る時に息子が「お母さん！僕も読みたいからも
う1冊買って！学校にも持って行く！！」と言い出し、
漢字も読めないし難しいからと言う親の話にも耳を
貸さず、一人で3階まで買いに走りまわりました。今も毎
日学校へ行くカバンの中に入っています。(「ちゃ
んと読んで！」と言い張っています。)もともと吃
音について息子と話すことはあったのですが(通っ
ている言語訓練の先生もオープンなので…。息
子は国立身体障害者リハビリセンター病院のM先
生にお世話になっているのですが、スタッフの方
のことも随分ご存知のようです。)、つどいに参加し
てからは、より色々話せるようになりました。

・「日本にはどもる人が100万人いるってことは僕
以外にも99万9999人いるってことだよ。」

↑つどいの日の日記には「なんだかすごく勇気
が湧いてきました。」と書いてありました。

・「どもるのって原因が分からないの？でもそれじ
ゃ治す方法も分からないってことだよ。悲しい
な…。」

↑「どもるってどんなこと」を読んで言っていました。
・「他のお兄さんやお姉さんがどもったりするの
を見てどう思った？」と聞くと、「なかなか言えない人
には頑張れ！って思った。辛そうだったけど、僕、
1つ分かったことがあるよ。それは一生懸命頑張れば
いいんだってことだよ。お兄さん達も頑張ってた
もん。」

真似されたりからかわれたりしたって、イヤだけ
気にしなきゃいいんだよね～！」「息子の悩みや
困ったこと、どうしたらいいか分からないことはこの
前のお兄さん達に話してみたら、きっとみんな分か
ってくれると思うし、アドバイスしてくれると思うよ。」
と言うと、「でもいつも会えるわけじゃないじゃん。」「そ
したら会いたい時にお母さんが連絡してあげるよ
♪」

↑勝手なことを言っすみません。

私は吃音者ではないので、息子と思いを共有し
たいと思っても、悲しいことに全く同じように…と
いう訳にはいきません。でも言友会の皆さんなら、
きっと分かってくれるんだと思います。仲間がいる
ということは、本当に幸せなことですよ。私は私
で、少しでも世間の人達に吃音」というものを理解
してもらえるように、行動したいと思っています。息
子の学校でも、毎年クラスの保護者の方々に話を
していますが、今度本を置いてもらっ、子供も含
め(もちろん先生方も)沢山の人達に読んでもらえ
れば…と考えています。(小さな一歩ですが)